NO.7　2007. 5. 15

歴史ロマン古道ニュース

【発行】歴史古街道団
事務局　〒206-0013 東京都多摩市桜ヶ丘4-36-21 APT1・2・3-302　宮田太郎
ホームページ http://homepage3.nifty.com/kokaido/　TEL/FAX 042-389-5534　（歴史古街道団 団長）

2007年4月14日（土）　唐木田から小山田への奥州古道と巡礼古道を歩く北海道視察団
ウォーキング講師：宮田団長　　主催：NPOみどりのゆび

ウォーカーズマナーの普及をめざそう

近年、各地でハイカー立ち入り禁止の寺院や農家が増え、急激に増えたウォーカー・ハイカーのマナー向上が急務となっています。各団体がルールを徹底しても心ない一部のグループが守らなければ、結局リュックを背負った同じ姿の人々として見られます。

駅での集合時、移動中や歩道での歩き方、トイレ利用や食事時のマナーなど団体全体で考えなければなりません。マナー向上の連合会や協会づくり、講習を受けた人のバッジ表示なども考えていきたいと思います。

広げよう！歴史古街道でつなぐ全国フットパスの輪

いま全国で始まっているフットパス構想（イギリスから始まった歩行者のための小径・遊歩道・散歩道づくり。自然や文化豊かな地域と歩行者が互いに良い関係を創っていく運動）への取り組みは、地域を元気にし、ウォーカーと共に協同して良い地域づくりを作っていく仕組みとして急速に広がりつつあります。

多摩丘陵にも数年前から多摩古道の見学に全国から視察団が来るようになってきたことは、歴史古街道団やNPO団体をはじめ、宮田団長と共に多摩丘陵の歴史と自然を愛してきた市民活動の大いなる成果でしょう。

古街道歩きは自分発見の小さな旅

例え遠くに行かなくても関東地方には素晴らしい歴史環境や自然、里山風景が数多く残されています。その中で、広大な東京・埼玉・神奈川など都市圏の空気をきれいに浄化しているのは多摩丘陵。そして古代からの大きな街道をたくさん集め、飲み込んでいたのも多摩丘陵です。古道を歩く人はみな自然な笑顔になり、日常のあらゆるストレスは緩和し、悠久の時間の中に生きている自分の存在と、様々なものに守られて生きていることの喜び、また新たな自分の可能性や豊かな人間性にも気がつくことができます。

№7

国民的運動がいま始まる

過去（歴史）・現在・未来の三つの時間世界のうち、現代人は「今これをやっておけば、将来はこうなる」という、「現在」と「未来」のたった二つの時間軸だけで暮らしているのではないでしょうか。つまり現代人は“3分の2”しか脳を使っていないのです。

いま私たちが悩んでいるようなことや喜怒哀楽も、みんな諸先人たちが経験してきたことばかりです。

先人に学び、先人の生きた時代の知恵や温かな心、豊かな感謝に満ちた暮らしを思い起こすべき時代が来たのではないでしょうか。

ギリシャの聖人の言葉に「理想なき民族は滅びる」という言葉がありますが、「過ぎし時代の偉大さと尊さを忘れた民族もまた滅びる」とも言えるでしょう。

私達も今回総会で、これまで歴史古街道団が目指してきた方向性の正しさを再確認すると共に、フットパス協会の仲間入りを検討し、志を同じくする全国・全世界の仲間達と手をつなぎネットワークを広げながら、地域に埋もれた歴史を学びつつ豊かな里山を歩く健康ウォーキングを続けようではありませんか――。

横山党から吉良一族まで

鎌倉武士団の興亡を探る

2007年6月～9月までの歴史ウォーキング（案内：宮田太郎団長）

古街道・探索ウォーキング

６月１９日（火）

『相原氏館跡伝説と
御殿峠古道を探る』

【コース】ＪＲ横浜線[相原駅」改札前10：00集合～諏訪神社～長福寺と開都の朱雀路～ファミレスで自由昼食（ガスト・コンビニ有り弁当可）～相原氏館跡～当麻田～境川沿い古道～相原駅～御殿峠～相原駅またはＪＲ八王子みなみ野駅

【内容】平安～鎌倉時代に、多摩地方で活躍した武蔵七党の一つ“横山党”は琵琶湖西岸から来た小野一族が土着してできた武士団です。
その一派の相原氏（藍原氏、粟飯原氏）は御殿峠やＪＲ相原駅周辺に館を持ち、境川と共に暮らしていました。鎌倉幕府の御家人として活躍した時代の昔なつかしい中世の風景に出会い、峠の里道を実際に歩いてみましょう。

古街道・探索ウォーキング

７月１８日（水）

東京の古街道を歩く
『豪徳寺の世田谷城址と
代官屋敷の世田谷博物館』

【コース】東急世田谷線「上町駅」改札前10：00集合～天祖神社～代官屋敷跡～世田谷区博物館～鎌倉街道～昼食～世田谷城址～豪徳寺～世田谷八幡～東急世田谷線「宮の坂駅」

【内容】世田谷にも中世・武士の時代のお城がありました。赤穂浪士の討ち入りで有名な吉良上野介の先祖である吉良一族は、鎌倉幕府の北条氏の娘を妻とし、戦国時代の小田原北条氏（後北条氏）の娘を二代にわたり妻にするなど、大きな力を持った豪族でした。世田谷の豪徳寺周辺の古道やゆかりの地を巡ります。

古街道・探索ウォーキング

９月１６日（日）

『藤沢の梶原御霊神社お神楽と
片瀬新林公園探索』

【コース】ＪＲ東海道線「大船駅」モノレール改札前10：00集合～モノレール湘南深沢～梶原御霊神社でお神楽見学と周辺飲食店で自由昼食（弁当も可）～路線バスで藤沢市川名の御霊神社～手広大谷緑地～新林公園

【内容】3月31日に開催した鎌倉の梶原谷散策のコースにあった御霊神社には珍しい神主が面をかぶり踊る神楽があります。今回はこの神楽を見学し、西の藤沢市域に続く古道を辿り、別の御霊神社や緑豊かな手広緑地と森林公園周辺に歴史を探索していきます。

共通参加事項

◆雨天の場合は基本的には中止（ただし小雨の場合実施することがあります。朝7時半までに実施か否かを本部事務局（ＴＥＬ042-389-5534）までお問い合わせ下さい。（それ以降は宮田団長の携帯電話090-7002-3431まで）
◆参加費＝共通事項参照とある場合は
団員700円（ご夫婦は二人で1,000円）
一般は一人1,000円。
◆その他＝雨具持参（晴れでも携帯下さい）
飲み物持参　昼食は飲食店利用の
場合と各自弁当の場合があり
ますので詳細は各案内参照

『武田信玄の隠し湯と八ヶ岳横岳の坪庭古道探索』
●8月21日（火）～22日（水）　*詳細は５ページ参照
1泊2日バスツアー/歴史古街道団・海陸古道研究会・鎌倉古道さとびとの会・合同企画

10/6（土）　パルテノン多摩２０周年記念事業

多摩センター駅前での防人パレード決定！

「多摩の万葉時代・防人パレード」と「ミネハハ・コンサート」

パルテノン多摩20周年記念事業のひとつとして、歴史古街道団を中心に“防人パレード”が、いよいよ多摩センター駅前で実現します。
翌日７日(日)には大ホールで多摩シティーオペラによる“防人オペラも”行われ、多摩センターが万葉時代一色に染まります！
◎14：30開始予定　◎メイン会場：パルテノン多摩大階段前
●多摩古道の歴史解説●防人パレードと万葉歌大朗詠●時代を超えた歌姫ミネハハのコンサートとパレードが一体となる大イベント！
★スタッフ・パレード出演者募集中！
主催：多摩の万葉時代・防人パレード実行委員会

MINEHAHA（ミネハハ）
神奈川県出身。MINEHAHA（ミネハハ）とは「ほほえむ水」という意味を持つ。フェリス短期大学音楽科（声楽）在学中から音楽活動を始め、3,000曲以上のＣＭソングを歌い「ＣＭの女王といわれる。現在、多方面に活躍中。本物の歌唱力と表現力で高い評価を得ている。宮田団長と親交があり今回の出演となる。

ミネハハ＆宮田のコラボレーションによる
「万葉・防人の世界」をご期待下さい！！

11/23（祝・金）　恒例！晩秋の“さきもりまつり2007”　今年も防人（さきもり）と歩きましょう！

「狛江の古墳めぐり」
狛江駅前から、いざ出発！
二〇〇六年十月八日

＊地元密着のガイドリーダーがご案内します

2007年 ガイドリーダーによる
史跡探索
ミニ・ウォーキング

参加費/団員500円　一般700円
申込不要　弁当・雨具持参

６月３日（日）
『昔の図師を探索し鎌倉街道・奥州古道を散策する』

ガイド：小菅　勲(団員)

【コース】「町田駅」町田バスセンター脇の西友 1F 入口前に 9:30 集合～⑫バス停から路線バスで図師に移動（図師バス停集合の方は 10：00）～熊野神社～宿地区（芝溝街道沿い）～伝鎌倉街道～縄文遺跡～市立室内プール（昼食）～日大三高～龍沢～結道地区（奥州古道）～熊野神社で 15:30 頃解散予定

【内容】図師の奥州古道(一部大山街道と重複) は古街道団でも一部歩いた事は有りますが、鎌倉街道を歩いた事はないと思います。これは地元に伝わる古道で路傍には石塔類や縄文時代の遺跡も有り、宮田団長によれば奥州古道系の鎌倉街道であろうとの事です。一方図師は商人町でもありました。図師宿を東西に縦貫する江戸街道、今の芝溝街道沿いには旅館・染物屋・呉服屋　明治初年の小野郷学の教場まで有りました。今でも地元の人は屋号で呼び合っています。旧家でのお話も考えています。

★連絡先　TEL042-791-3592（小菅）

■６月２４日(日)
『鎌倉の古刹杉本寺から逗子岩殿寺への巡礼古道』

ガイド：藤田一彦(団員)

【コース】ＪＲ「鎌倉駅」東口改札口前に 10:00 集合～杉本寺～釈迦堂切通～北条時政邸～衣張山（昼食）～報国寺～巡礼古道～名越の大切岸・切通～岩殿寺～ＪＲ逗子駅で解散予定

【内容】　鎌倉最古の寺、杉本寺は板東三十三ヶ所霊場巡りの第一番札所でもあります。板東三十三ヶ所は鎌倉時代には設定されていたと考えられ、室町中期以降一般庶民も札所を巡拝したといわれていますが、江戸時代には庶民の間でますます盛んになりました。今回歩くコースは一番札所杉本寺から二番札所岩殿寺までの、今でも当時の雰囲気を感じる巡礼道を辿ります。あわせて釈迦堂の切通しを訪ねて、付近に残る北条時政邸、北条義時供養の釈迦堂建立の伝承から、北条氏が六浦道を抑えていったことを推理したいと思います。岩殿寺の途中で、名越の大切岸と切通しに寄り、三浦氏への抑えである要害のさまを実感します。

★連絡先　TEL045-788-4764（藤田）

７月８日（日）
『葛飾柴又帝釈天・矢切の渡し・戦国の下総国府台合戦痕跡を歩く』

ガイド：田口俊弥(団員)

【コース】京成金町線「柴又駅」改札口前に 10：00 集合～柴又八幡神社古墳～帝釈天～昼食（弁当無しも可）～矢切の渡し（片道 100 円）～野菊の墓文学碑・国府台合戦古戦場跡～矢切神社～愛宕神社～新山遺跡（古代東海道跡）～北総鉄道「矢切駅」で 15：30 解散予定

【内容】戦国時代、東京と千葉の県境を流れる江戸川を東西に分けて、小弓公方足利氏＆安房里見氏 VS 小田原後北条氏が死闘を繰り広げました。俗にいう下総の国府台合戦です。今回はこの両陣営が激突した下総矢切周辺を散策します。併せて近年発掘されて明らかになった平安時代の下総と常陸を結ぶ官道遺跡もご紹介します。

★連絡先TEL047-322-4338（田口）

８月７日(火)
『稲城妙見寺の“蛇より行事”見学』

ガイド：進藤重孝(団員)

【コース】京王相模原線「稲城駅」南口改札口前 12：30 集合～公民館(予定)～妙見寺・妙見尊で蛇より行事見学(15:30 頃解散予定)

【内容】団では、稲城百村の妙見尊には何度か行っており、“蛇より行事”で安置されたカヤ製の蛇を見た人は多いと思います。今回、夏の盛りではありますが、“蛇より行事”の由来を知り実際に見学します。350 年近く続いている行事の迫力を体感し、歴史の重みを感じてみましょう。

★連絡先　TEL042-377-8545（進藤）

2007 年度定期総会

■日時：5月27日（日）
14:00～16：30

■会場：多摩市立関戸公館
大会議室<VITA(ヴィータ)8階>

☆　第一部　総会　14:00～15:10

- 2006 年度活動報告
- 2006 年度決算及び監査報告
- 2007 年度活動方針案
- 2007 年度予算案
- 会則の一部改正案
- 第 2 期役員選任

－休　憩－

☆　第二部　講演会 15:30～16:30

『武蔵国府成立の謎に迫る』
～東京湾への古品川道・金沢六浦道と北辰ライン～
講師：宮田太郎
(団長・歴史古街道研究家)

※入団希望者の出席大歓迎
（団員以外の方は第二部からの参加になります）

■９月３０日（日）
『鎌倉街道と東山道・武蔵路(国分寺編)』

ガイド：庄司健次郎（団員）

【コース】ＪＲ中央線・武蔵野線「西国分寺駅」南口広場に 9:30 集合～鎌倉街道跡～黒鐘公園～国分寺（尼寺と僧寺）～お鷹の道～真姿の池～都立国分寺公園（昼食・弁当）～一葉の松～熊野神社～鎌倉街道跡～姿見の池～JR 国分寺駅(15:30 頃解散予定)

【内容】武蔵国分寺があった場所は今でも礎石が残り、ハケの湧水から霧が立ち込める日はなんとも幽玄な様相に変わります。今も残る鎌倉街道や古代道路の痕跡を現地に探ります、恋路太夫ゆかりの傾城の松や真姿の池は昔の物語を思い起こさせてくれるでしょう。

★連絡先　TEL070-6555-6362（庄司）

講　演　会

鎌倉時代研究の第一人者
ゲンボー先生　来る！
全国の受講者に大好評！
目から“うろこ”のお話がいっぱい！

「鎌倉時代」その社会と生活

講師：多賀譲治先生
玉川学園遠隔教育推進室研究員
玉川文化財研究所特別研究員　他

8/2(木) 14：00～16：00
会場：関戸公民館　大会議室
参加費：団員 700 円　一般 1,000 円
（申込不要）

日本の歴史は考古学という科学と結びつき、過去に生きた人々の生き様がより具体的に見えるようになってきました。吾妻鏡や御成敗式目から読み解く当時の社会や価値観と、考古学上の新しい発見から見えてきた当時の生活を結びつけて、より身近に感じられる鎌倉時代をお伝えします。（多賀）

多賀譲治先生：団報５号の「道との遭遇」に登場。宮田太郎団長の学生時代の恩師。現在、遠隔学習の研究と実験を推進中。全国の公立学校や玉川学園小学部などとの授業実験を数多く行い、文科省表彰や都知事賞など多数受賞。

学習会

小山田与清と『三保道記』
（おやまだともきよ　みほじのふみ）

講師：奥村辰三（調査研究部）
9/23（祝・日） 14：00～16：00
会場：関戸公民館(予定)（申込不要）
参加費：団員300円　一般500円

調査研究部が中心となり、今秋から数回にわたり『三保道記』に記された道を辿るミニ・ウォークを企画しています。『三保道記』の紹介は7頁に掲載してありますが、多摩出身の幕末の三大家である小山田与清と『三保道記』について一緒に勉強しましょう。

連絡先　℡ 042-725-7120(奥村)

関戸公民館＝ＶｉＴＡ（ヴィータ）８階
（聖蹟桜ヶ丘駅前西口～徒歩３分）
電話 042-374-9711

絶景の伊豆大島“鎮西為朝伝説”歴史ロマンの旅

海陸古道研究会発足記念・船で行く1泊2日ツアー

6月27日（水）～28日（木）
■集　合：9：30ＪＲ熱海駅南口改札前（バスターミナル側）
（または：小田急線・町田駅小田原方面１番ホーム最後部に7：25）
■定　員：先着 25 名
■参加費：19,000 円
（熱海港から大島往復ジェット船賃、一泊二食付き宿泊代、旅行保険代）
㊟大島島内の路線バス代や入館料・昼食代は自己負担
■申込〆切：6 月 3 日（日）

（同行講師：宮田太郎）
【内容】東京にもっとも近い島のひとつ伊豆大島では、縄文遺跡や黄金でつくられた古代の祭具が発見されています。団長が椿ロードの切通で発見した縄文遺跡や修験山伏たちの遺跡と洞窟、鎮西八郎源為朝が流されたときの伝説地、三原山の中腹の裏砂漠散策、絶景の露天風呂など魅力がいっぱいです。近いながら、なかなか行けなかった大島を思いきり楽しみましょう。
★宿泊先：大島観光ホテル（絶景の露天風呂で有名）

＊3団体合同宿泊ツアー（歴史古街道団・海陸古道研究会・鎌倉古道さとびとの会）

武田信玄の隠し湯と八ヶ岳横岳の坪庭古道探索

1泊2日　バスツアー（同行講師：宮田太郎）

8月21日（火）～22日（水）
■集　合：7：45聖蹟桜ヶ丘駅西口改札前（タクシー乗り場側）
■定　員：先着 27 名
■参加費：19,500 円
■申込〆切：8 月 8 日（水）
【内容】夏も涼しい八ヶ岳や蓼科の高原地帯には美しい自然の庭園（坪庭）や黒曜石が今も大量に散乱する山や、日本最高地にある古街道ながら容易に散歩できる高原の尾根（八子ヶ峰）があります。武田信玄も隠し湯としてゆったり身体を休めた神秘の森を歩きましょう。
【コース】京王線聖蹟桜ヶ丘駅西口改札口前 7:45 集合～中央道～風林火山館～麦草峠の黒曜石産地～奥蓼科温泉郷宿泊～横岳の坪庭と神秘の池～奥蓼科の女滝～大滝神社（黒曜石が御神体）～すずらん峠と日本最高地点の古街道（八子ヶ峰のヒュッテまでの軽いハイキング）～中央道～聖蹟桜ヶ丘駅
＊天候等によりコース変更の場合有り

＝宿泊ツアー申込方法＝
◎電話・FAX・メールで受付　◎各イベント時にはスタッフが受付
☆TEL/FAX=042-389-5534（団本部）
留守電の場合はお名前と連絡先と内容を録音または FAX 下さい。
☆メール=kokaido@r3.dion.ne.jp　（いずれも宮田団長宛）

＝海陸古道研究会＝

◎参加費：会員 700 円、一般 1,000 円
（申込不要、小雨決行）

●7/26（木）『品川湊の二十六夜お月待ちと高輪散歩』
集合/ＪＲ山手線「田町駅」北口改札前
14：00集合～19：30頃解散
（内容）かつて江戸時代には江戸湾に登る月を眺める一大イベントが行われていた。様々な錦絵に描かれた当時の賑やかな様子を想像するべく、高輪の月の峰といわれた付近を散策するロマン溢れる夕暮れ時のそぞろ歩きです。
連絡先＝携帯 090-7002-3431（宮田）

＝鎌倉古道さとびとの会＝

参加費：800 円（申込不要）

●6/11（月）
鎌倉街道早ノ道を探るシリーズ①
『鶴川から真光寺へ』
集合/小田急線鶴川駅北口改札前
10：00集合
＊8/21～22バスツアー　＊7月・9月はお休み
連絡先☎042-376-1122（遠藤）

●8/21（火）～22（水）『武田信玄の隠し湯と八ヶ岳横岳の坪庭古道探索』
３団体合同企画バスツアー（上記参照）

NHKの番組から

中丸三次（調査研究部）

本稿は、かつてNHKテレビで放送された堂々日本史 御柱祭ー知られざる古代･ニッポン巨柱地図ーという番組の要約である。この番組に出演された作家長部日出雄氏と同志社大学教授森浩一氏の話から、古代信州諏訪から多摩丘陵に通ずる古代甲州道を推定しようとする夢物語である。

甲州古道は翡翠（ヒスイ）の道か？

NHK放映･歴史街道を検証する

堂々日本史 御柱祭知られざる古代ーニッポン巨柱地図

日本海の巨木信仰

神話に、出雲国の国神であったタケミナカタは、高天が原の神との戦いに敗れ、逃れてきたのが諏訪の湖（うみ）であったと伝えられている。この物語は、出雲の歴史がたどった現実の歴史だとされ、出雲から諏訪に逃れたタケミナカタの遁走経路に沿って一つの信仰が残されている。

古来、港として栄えた美保関にタケミナカタを祭った諏訪神社があり、能登半島には、毒蛇を退治してこの地を開いたと伝えられるタケミナカタが蛇退治に使ったといわれている鎌を神社の木に打ち付ける神事が鎌諏訪神社に残っている。

内陸に入った長野県小谷村には鎌がタケミナカタの分身として千年以上前から伝っているといわれている。また、諏訪の「御柱祭」では御柱に使われる樅の巨木の伐採に先立ち鎌を打ち付ける神事がある。

出雲から諏訪へ同じ信仰が残る事実は、巨大な柱の文化もこの道を通って諏訪に伝わったものとされている。

縄文晩期、巨木信仰を持つ日本海文化は、大和朝廷の信仰により大和の文化に吸収されたが、諏訪は周囲を高い山で囲まれた地であったため、大和朝廷の眼を逃れ、姫川を遡った諏訪に日本海文化の象徴の巨木信仰が「御柱祭」として守られていた。

「御柱祭」の行事が始まった時期は、あまり古すぎてわからないが、優に2300 年程前の縄文晩期からと見られており、このような巨木崇拝の祭祀と思われる遺跡は、北陸を中心に東日本の各地に散見され、青森県の三内丸山遺跡、金沢のチカモリ遺跡などがそれである。

このような巨木による造形物は、北陸地方の遺跡から数多く発見されており、各地に散らばって集落を形成している部族集団の全体をまとめるための祭祀の一つとして、切り出された巨木を遠くから運び、立てることで部族の団結を図ったものと考えられている。他に集団作業が必要な祭祀には、例えば食料（胡桃、栗、鮭など）を一定期間内に収穫する必要から、一族を纏める手段として柱立てなど行われたのであろう。三内丸山遺跡の例としては、この地方に大きな部族集団が居住し、それらを一同にまとめる祭礼として立てられたのではないか。従って立てた後は、何の用途もなく、現存する諏訪の「御柱祭」の如く、立てることにのみ意義があったと推定されている。

このことは、金沢のチカモリ遺跡から掘り出された柱は、根本の部分だけが腐らず残っていたが、柱には綱を通したと思われる穴があり、溝まで掘られていたことからみて伐採の後、長い距離を引いて来たことが伺える。

大柱を立てるには大変な人手と困難があり、部族をまとめるカリスマ性のある司祭が、神の力が宿るシンボルとして翡翠を用いたのであろう。

ヒスイと巨大柱のルート

日本海を東西に延びる翡翠の交易ルート、その上に柱の祭りが広がっていった。このようにして縄文時代に翡翠の交易ルートが延びていた諏訪に、このルートを通じて巨柱を立てる祭りが伝わったと考えられる。また、諏訪にはタケミナカタの末裔といわれた生神様が明治に至るまで厚い信仰を集めていた。大祝（オオホウリ）というこの生神様の司った祭りの様子が記録に残されている。この祭りは、春に獣を生贄（いけにえ）として神に捧げ感謝する祭事で、稲作文化に基づいた大和政権の祭りとは異なる諏訪独自の神事であり、諏訪の地に明治時代まで生き続けてきた。

柱の祭りが絶えることなく続けられてきたのも、諏訪独自の信仰に支えられてのことであった。このことは、諏訪大社の祭紳がタケミナカタノ命であることが物語っている。

不思議な魔力もつヒスイ

このような大集団をまとめるカリスマ性をもつ人物は、何か特別の才能を持つか、貴重な品を身に付けることによりその威光をかりていたことが推測されるが、このようなモノとして翡翠（ヒスイ）の存在があるとされている。

翡翠は縄文時代、不思議な魔力を宿す石とされ、宗教的な儀式に用いられていたことは知られている。

三内丸山遺跡はじめ、巨大な柱が出土した新潟県寺地遺跡から発見されており、ここでは翡翠の原石と加工場の跡や加工途中の翡翠も数多く発見されている。

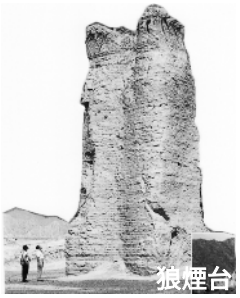
翡翠の原産地は新潟県青海町周辺で、一つは西（北陸）へ、もう一つは東北へのルート、それから内陸では諏訪のあたりと関東地方で出土している。さらに、諏訪を通って太平洋側に抜ける交易ルートも考えられるという。

このように考えると、巨大柱を立てる祭りと翡翠をシンボルとする祭りが一体化していたのではないか。つまり巨

以上のことから我々が推定する古代甲州道は青海町から翡翠や八ヶ岳の黒曜石を太平洋域に運ぶ交易ルートと考えられる。

多摩ニュータウン遺跡群のなかの No.72 遺跡から翡翠 4 点を含む大量の黒曜石が出土した。東京都埋蔵文化財センターの山本孝司氏は、「諏訪周辺に集められた翡翠は黒曜石と一緒に山梨を経て南関東に運ばれ、多摩地方を経由して東京湾沿いの地方に供給され、塩や干し貝などと交換された。このときの卸問屋の証に翡翠が用いられたのではないか」としている。

中国西域へ行って来ました！



町田市　小菅　勲

いささか旧聞になりますが2006年9月に９日間中国新疆ウイグル自治区へ旅行し、最も西はカザフスタンまで16kmの地点まで行きました。その時の印象に残ったものを紹介します。

①版築　庫車(クチャ)郊外に有り築造は西暦1～3世紀です。ここは「スバシ故城」跡と言い、川を挟んで東西に別れて建つ大きな寺院跡です。その後侵略者により滅ぼされそのまま廃棄されたとの事です。私、「版築工法」なるものを初めて目の当たりにしました。土器片等も見つける事が出来ましたがかなり赤っぽいものです。ここも剥離・崩壊がすすんでいます。なお、ここで私は石製の横笛を買いました(日本には無い？ と思います) 90元を50元に(1,350円を750円に)！！

②狼煙台　これも庫車(クチャ)郊外に有る狼煙台で西暦 1～3 世紀に当時の土木技術版築工法で建てられた大きな狼煙台です。残念ながらツアーのコースに組み込まれていなかったため、近くには行かれませんでした。中国の案内書にも詳細は掲載されていません。地上高10mは有るでしょう。遠目には上部が双頭に見えました。ここから何処に向けて狼煙を上げたのでしょうか。そびえ立つ姿が今も目に残ります。**国宝です！**

この近くで人民軍の車列200台に遭遇し、通過までかなり待たされました。中国では人民軍には何を言っても絶対に勝てません。

③中国西域の都市喀汁(カシュガル)の「シルクロード」の十字路、あるいは民族の十字路とも云われる大きな交差点が有りますが、今も多種の民族、そして新疆最大のバザール場でも有ります。

西域ではトイレはホテル以外全員**“青空”です。**買物は絶対交渉すべし――これ基本です！

アンケート結果

ウォーキング参加者に聞きました

“歴史ウォーク”で行きたい場所はどこですか？

★八王子周辺　★成瀬界隈　★狭山丘陵　★稲城　★奥多摩むかし道　★鎌倉古道　早ノ道　★鎌倉　★埼玉方面　★東北地方　★大山阿夫利神社　★多摩地方の義経伝承地　★国分寺　★立川　★あきる野・五日市・奥多摩　など

（ご協力有難うございました。今後の参考にさせて頂きます）

2006/7/23(日)

ウォーキング**参加記**

深大寺の鎌倉道と高句麗仏教伝説ロマンを探る

多摩市　藤井登貴男

調布パルコ前よりバスで２０分、御塔坂下で下車、脇道に入りて聖ヨガノ修道院入り口にてその成立を聞く。曇り空の蒸し暑い中、元気印の昔の若者達？、総勢５０余名、時に列を乱しお喋りしながらの行進。どの顔も楽しそうで活き活き幸せ一杯・・・と感嘆している内に深大寺通り入口に到着。桜並木を進むと今迄の風景が一変する。両側小高い森が迫り、鬱蒼とした木立、街の騒音もなく、唯静寂、蝉の声ばかりがやけに大きく聞こえる夏の今。

道の両側に並ぶ茶屋風の蕎麦屋の多い事。映画のワンシーンを見てる様な何か懐かしい風情が此々にはある。その昔この辺りは谷地で涌水・沼地の地形、その縁として水神に関係した深沙大王が祀られてると云う御堂を拝す。この参道の反対にいくと布田神社に通じるとの説明に驚く。緑の小道を抜ける。一転して明るい広々した深大寺の境内に至る。白鳳時代の釈迦像、正月三日に亡くなった慈恵大師の元三大師堂、開山参詣道を巡り午前の行程を終える。

各自思い思いのグループと場所で昼食。約４０分の休憩後、午後の行動に移る。大山門を出て左へ。小川が流れ蕎麦・氷・産直品の旗がパタパタ揺らぎ、赤い毛氈を敷いた縁台の並ぶ参道を抜け多聞坂を上がる。延喜式にも載っている由緒有る青渭神社へ移動。

鳥居の脇に欅の老樹は調布市内随一の巨木とか。境内で縄文土器の破片も出る説明を聞きながら、列は一度一般道に出て植物公園に入る。坂道を右に添って登ると蕎麦畑が広がり、この台地が深大寺城址。記念の屋敷礎石が配置されている。奥に進むと土橋・空堀が今に残り更に進むと第一から第三郭の型式でその先は崖下、絶壁で自然の要塞となる。

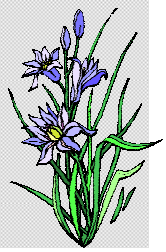
”夏草や兵(つわもの)どもが夢の跡”・・・の句を思い出しながら急坂を下り中央高速の隧道をくぐり旧古参道と思われる虎狛神社への道をいく。

黒松の大木がそびえる境内も社(やしろ)もこぢんまりと現代に忘れ去られた様に無表情に唯そこにましまされている･･･と感じたのは小生だけだろうか。

そんな虎狛神社を後に列は三鷹通りに出て野川の手前、桑田倉庫の空き地で今日の全行程を無事終了、散会となる。

何時もながら宮田先生の単純明快、ウイット、ジョークに富んだ講釈に大拍手。次回も楽しみにしてます。

MEMBER'S サロン SALON



2006/11/26(日)

ウォーキング**参加記**

多摩市の石仏巡り

八王子市　斎池カズエ

11月26日、奥村講師のご案内で、石仏巡りに参加させていただいた。時おり小雨がぱらつく中、総勢18名で関戸、有山、東寺方、一ノ宮などの古道をたどる。講師のお話では、石仏を見るポイントは先ず年号を見ること、その時代や人々の生活を思うことだそうである。ふだん何気なく見ている路傍の石仏も、六地蔵ならぬ六観音であったり、オオカミ谷付近の庚申塔には、三猿の代わりに「三匹狼」(狼はオオカミ)と彫られていたり、よく見るとそれぞれにユニークであった。多摩市には庚申塔が多いのも発見であった。供花、供物され手入れの行き届いた石仏を見ると、今も民間習俗としてこの地に根付いているのがわかる。おそらく女性による念仏講中が続いているのであろう。インドで生まれた仏教が日本に伝わり、貴族、しかも男性のものであった仏教が長い年月をかけて神道、修験道、道教や民間信仰と習合して庶民に普及し、習俗として今に続いている。石仏は地域の人々を結ぶ役目も担っているようであった。奥村講師、中丸さん、新井さん有難うございました。

観蔵院の六地蔵前で説明を聞く

ふるさと人物往来

多摩郡出身の江戸･国学者

小山田与清（おやまだともきよ）と『三保道紀（みほじのふみ）』

奥村辰三（調査研究部）

今から5年ほど前、町田市立図書館に於いて『筑井紀行』が発行されました。題名は一応『筑井紀行』となっていますが、その中の内題で『三保道記（みほじのふみ）』が第一巻～五巻まで掲載されています。皆様は著者の小山田与清（おやまだ ともきよ）について、なじみが薄いと思われますので、今回は簡単に紹介させていただきます。

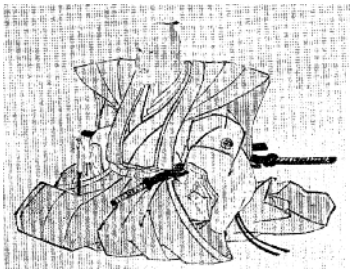
小山田が生んだ著名な和学者

与清（ともきよ）は武蔵國多摩郡小山田村（現町田市上小山田町）の田中忠右衛門本孝の次男として生まれました。

17～8歳の頃江戸に出て、賀茂真淵（まぶち）門下の国学者･村田春海に師事して、平田篤胤（あつたね）･伴信友（のぶとも）と共に幕末の国学三大家に数えられましたが、当時は十分な評価が与えられませんでした。

享和3年（1803）21歳のとき父を失い、同年 9 月に神田のほとり見沼通船方（今の千代田区外神田 1 丁目秋葉原駅の南）高田氏の養子となり、庄次郎与清（ともきよ）と名乗りその屋敷に住みました。

『三保道記』は、文化 11 年（1814）32歳の 9 月に出発、故郷の小山田村を経て津久井県の紅葉を訪ね、相模野･二俣川･神奈川･川崎を回って 10 月に江戸に帰って来た道中記であります。その内容は、私たちにとって非常に興味深いものがありまして、その道順を略記しますと、江戸の通船屋敷を 9 月 18 日に出発して、渋谷～世田谷～布田～大丸（稲城）～府中～谷保～関戸～乞田～別所～上小山田～小山～橋本～久保沢～川和～石老山～根小屋小倉から橋本までバックして来てから、淵野辺～鶴間～川崎～大森～品川を経て10月2日に江戸へ到着して居ります。



小山田与清肖像

相州津久井県（そうしゅうつくいあがた）の紅葉見物紀行

この『三保道記』は、多摩の名所･旧跡など、私たちが知っているところが数多く書かれていますので、今とその当時と、どのように変わってきているのか、読んでいて、つい歩きたくなる道中記であります。調査研究部でも「古道」とは少し離れますが、一度歩いてみたいと今後、国土地理院の地図上にその道程をおとしてみよう思っています。皆様のよく知っているところを『三保道記』では次のように書いていますので紙面の許す限り抜粋してみました。

狛江の泉龍寺のところでは、「和泉村泉龍寺に、やんごとなき地蔵菩薩おはしませり。寺の後ろの方に、ここをはじめし良辨（ろうべん）僧正の墳（ふん＝はか）あり、今は、経詠み塚とよぶ。塚の中より経読む声きこえたるがゆゑの名なりしとぞ。門の右のかたへに弁天の社あり。藤の樹の大きやかなるが這ひひろごれる、楓の青葉の小暗う茂れる、えもいわずをかしき（風情がある）」

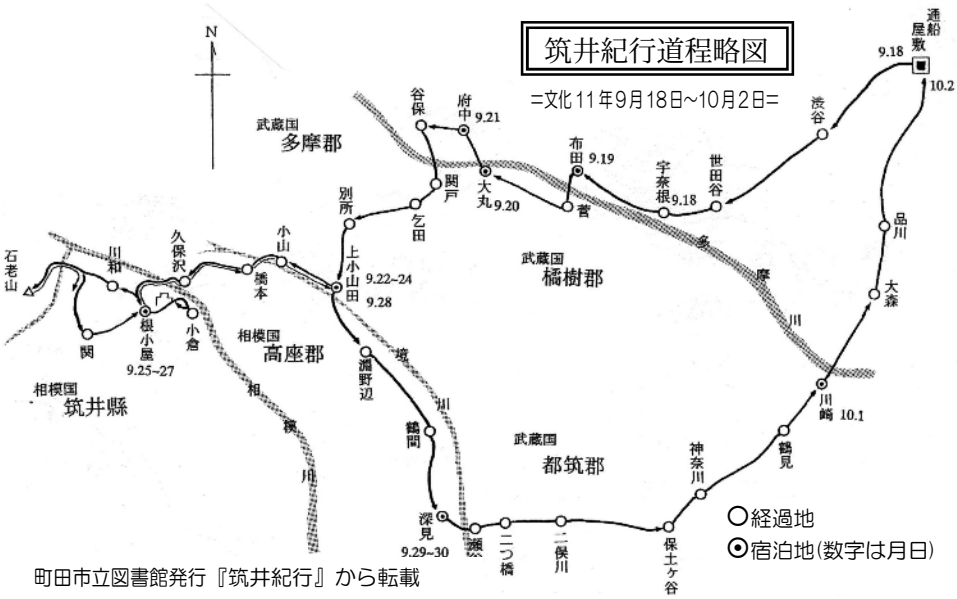
これは以前、調査研究部の中丸氏が廻り観音や廻り地蔵のことをミニウォークの資料の中で書きましたが、廻り地蔵のお寺です。また聖蹟桜ヶ丘のあたりのことをこう書いています。

「中河原村を経て玉川をわたる所をば一ノ宮の渡しといふ。一ノ宮村はここより離れたれど、そこの渡し守がこの河原に仮の庵して、行き来の人を待ちわたす（渡す）めれば、しか呼べるなりけり。そもそも玉川と呼べるは、多摩郡を流るるがゆゑにて、もとは丹波（たば）といふ里の名に起これるなるべし」

一ノ宮の渡し跡記念碑（多摩市）

何だか取り留めのないことを書いてしまいましたが、今度ミニウォーキングの時に歩きながら説明しますので宜しくお願い申しあげます。

＊参考資料：町田市立図書館発行『筑井紀行』



町田市立図書館発行『筑井紀行』から転載

コラム

小山田与清（おやまだ ともきよ）天明3年（1783年）～弘化4年（1847年）

江戸時代後期の国学者。父：田中本孝、母：平戸稲子。号：松屋。武蔵国多摩郡出身。古屋昔陽・村田春海に師事し、故実の考証学を専門とした。著書に「群書捜索目録」、「松屋叢話」、「松屋筆記」等がある。明治から昭和の政治家・高田早苗は孫に当たる。

和学の基礎研究（類書･考証の学）に大きな足跡を残した一方、蔵書家としても知られ、書庫の「擁書楼」には数万巻の蔵書が納められ、図書館の機能ももっていた。また、華頂宮尊超法親王に仕え、水戸藩主徳川斉昭にも信任され、水戸学にも影響を与えたと評価されている。与清の門弟は数百名といわれ、その影響力は多摩にもおよび、著作や短冊、書などが小山田やその周辺にも残されている。

2007年初夏～初秋の歴史ロマン古道予定表（一部計画中を含む）

注）問合せ欄；(団)＝歴史古街道団、【協力団体】(里)＝鎌倉街道さとびとの会、(海)＝海陸古道研究会。
探索・学習テーマ欄；歩＝ウォーキング、学＝講演会／学習会、準＝準備会、ミニ＝史跡探索ミニ・ウォーク

月日	集合場所･時間	探索・学習テーマ	参加費	申込み	問合せ先
５月18日(金)	JR横浜線／淵野辺駅 改札口前　09:30	【歩】八幡太郎ゆかりの箭幹八幡神社と淵野辺氏の館跡を探る	団員:700円 一般:1,000円	当日	(団)宮田 TEL042-389-5534
５月23日(水)	京王線／聖蹟桜ヶ丘駅 西口改札前　07:45	【バス】甲斐国の古代ロマンと信玄の遺跡を探る	6,000円 (先着28名)	５月２日〆切	(里)遠藤 TEL042-376-1122
５月27日(日)	関戸公民館8F大会議室 (VITA8F)聖蹟桜ヶ丘駅 西口～徒歩3分　14:00	【総会】歴史古街道団・07年度総会 特別講演：『武蔵国府成立の謎に迫る』	―	―	(団)宮田 TEL042-389-5534
６月３日(日)	小田急線／町田駅 町田バスセンター脇の 西友1F入口前　09:30	【ミニ】昔の図師を探索し鎌倉街道奥州古道を散策する	団員:500円 一般:700円	当日	(団)小菅 TEL042-791-3592
６月11日(月)	小田急線鶴川駅 北口改札口前　10:00	【歩】鎌倉街道早ノ道を探るシリーズ①鶴川から真光寺へ	800円	当日	(里)遠藤 TEL042-376-1122
６月19日(火)	JR横浜線／相原駅 改札前　10:00	【歩】相原氏館跡伝説と御殿峠古道を探る	団員:700円 一般:1,000円	当日	(団)宮田 TEL042-389-5534
６月24日(日)	JR横須賀線／鎌倉駅 東口改札前　10:00	【ミニ】板東三十三観音、一番札所杉本寺より二番札所岩殿寺への巡礼古道	団員:500円 一般:700円	当日	(団)藤田 TEL045-788-4764
６月27～28日(水・木)	JR東海道線／熱海駅 南口改札口前　09:30	【旅行】絶景の伊豆大島“鎮西為朝伝説”歴史ロマンの旅、先着25名	19,000円 (宿泊・船代)	６月３日〆切	(団)(海)宮田 TEL042-389-5534
７月１日(日)	多摩ｾﾝﾀｰ駅前 パルテノン 多摩会議室　13:30	【準】多摩の万葉時代・防人パレード説明会＆準備会、第1回	―	当日	(団)宮田 TEL042-389-5534
７月8日(日)	京成金町線／柴又駅 改札口前　10:00	【ミニ】葛飾柴又帝釈天から矢切の渡しへ、戦国の下総国府台合戦痕跡を歩く	団員:500円 一般:700円	当日	(団)田口 TEL047-322-4338
７月18日(水)	東急世田谷線／上町駅 改札前　10:00	【歩】東京の古街道を歩く～豪徳寺の世田谷城址と代官屋敷の世田谷博物館	団員:700円 一般:1,000円	当日	(団)宮田 TEL042-389-5534
７月26日(木)	JR山手線／田町駅 北口改札前　14:00	【歩】品川湊の二十六夜お月待ちと高輪散歩	会員:700円 一般:1,000円	当日	(海)宮田 TEL090-7002-3431
８月２日(木)	関戸公民館8F大会議室 (VITA8F)聖蹟桜ヶ丘駅 西口～徒歩3分　14:00	【学】古街道団合同講演会。テーマ：「鎌倉時代」その社会と生活。講師：玉川学園・大学 研究員 多賀譲治氏	団員:700円 一般:1,000円	当日	(団)宮田 TEL042-389-5534
８月５日(日)	たま・まち交流館　13:30 多摩センター・三越向かい ワーナーマイカル地下１Ｆ	【準】多摩の万葉時代・防人パレード説明会＆準備会、第２回	―	当日	(団)宮田 TEL042-389-5534
８月７日(火)	京王相模原線稲城駅 南口改札口前 12:30	【ミニ】稲城妙見寺の蛇より行事見学	団員:500円 一般:700円	当日	(団)進藤 TEL042-377-8545
８月21～22日(火・水)	京王線／聖蹟桜ヶ丘駅 西口改札前　07:45	【旅行】武田信玄の隠し湯と八ヶ岳横岳の坪庭古道探索、先着27名	19,500円 (ﾊﾞｽ代・宿泊)	８月８日〆切	(団)宮田 TEL042-389-5534
８月26日(日)	関戸公民館8F会議室(予定) (VITA8F)聖蹟桜ヶ丘駅 西口～徒歩3分　13:30	【準】多摩の万葉時代・防人パレード説明会＆準備会、第３回	―	当日	(団)宮田 TEL042-389-5534
９月２日(日)	たま・まち交流館　13:30 多摩センター・三越向かい ワーナーマイカル地下１Ｆ	【準】多摩の万葉時代・防人パレード説明会＆準備会、第４回	―	当日	(団)宮田 TEL042-389-5534
９月16日(日)	湘南モノレール大船駅 改札口前　10:00	【歩】藤沢の梶原御霊神社お神楽と片瀬新林公園探索	団員:700円 一般:1,000円	当日	(団)宮田 TEL042-389-5534
９月17日(祝・月)	多摩ｾﾝﾀｰ駅前 パルテノン 多摩会議室(予定)各13:30	【準】多摩の万葉時代・防人パレード説明会＆準備会、第５回	―	当日	(団)宮田 TEL042-389-5534
９月23日(日)	関戸公民館8F会議室(予定) (VITA8F)聖蹟桜ヶ丘駅 西口～徒歩3分　14:00	【学】小山田与清と三保道記 講師：奥村辰三（調査研究部）	団員:300円 一般:500円	当日	(団)奥村 TEL042-725-7120
９月30日(日)	JR中央線／西国分寺駅 南口広場　09:30	【ミニ】鎌倉街道と東山道・武蔵路（国分寺編）	団員:500円 一般:700円	当日	(団)庄司 TEL070-6555-6362
10月４～５日(木・金)	多摩ｾﾝﾀｰ駅前 パルテノン 多摩会議室(予定)各13:30	【準】多摩の万葉時代・防人パレード説明会＆準備会、第６，７回	―	当日	(団)宮田 TEL042-389-5534
10月６日(土)	パルテノン多摩周辺 14:30	【イベント】多摩の万葉時代・防人パレードとミネハハ・コンサート	―	当日	(団)宮田 TEL042-389-5534
10月７日(日)	パルテノン多摩	【イベント】防人オペラ参加	―	当日	(団)宮田 TEL042-389-5534

※2007年度･年会費はお早めに納入願います　※入団希望者受付中！年会費 3,000 円 (ご家族は 2 人で 3,000 円)

編集後記　今年もまた新緑に輝く季節が巡ってきました。歴史古街道団も３年目に入り、多忙な団長を支えながら(?)団員が知恵を絞り新しい企画でウォーキングを楽しもうと頑張っています。いつものことながら、団報もやっと発行にこぎつけました！皆様のご意見・ご感想お待ちしています。

編集責任：歴史古街道団広報部（河村・金子・遠藤）

【発行】歴史古街道団
事務局：〒206-0013 東京都多摩市桜ヶ丘 4-36-21 APT1･2･3-302
宮田太郎(歴史古街道団団長)　TEL/FAX　042-389-5534
http://homepage3.nifty.com/kokaido/